

特集 直前 30 日必勝ポイント

日本史

石川晶康 あき やす

論述問題のパターン と攻略法

センターも終わり、いよいよ2次試験に向けて最後の追い込みということになりました。

中心は2次論述問題。前号でも、私大で課される比較的短い論述から東大・一橋大などの本格的な論述まで、自分の受ける大学の過去問に論述問題がある場合、その大学のパターンに合わせた対策を立てなければならないこと、そして、定期的に添削を受けることの必要を指摘しておきました。もっとも、添削を受けるところまではいつていない人も多いでしょうが、基本さえしっかりしていればだいじょうぶです。まず、おびえないことが大事。そして、あとは時間との勝負です。

I. 論述問題のパターン

さて、論述といってもさまざまなパターンがあります。いろいろな分類の方法があるでしょうが、次のような分類が一般的でしょう。

(1) 語句説明(辞書的説明)型

① 単純説明型

一番単純なパターンです。「次の語句を説明せよ」といったタイプで、辞書的な説明を求めるものです。字数は100字程度が一般的。私大では法政大学・成城大学などの100字論述が典型です。例え

ば、

〈例題1〉

応仁の乱について、100字以内で述べよ。

さて、どうしますか。いきなり「応仁の乱」と言われても困ってしまうという人は次のように考えてみてください。

歴史の問題なので、ある事項にはその前史とその後の経過があります。あるテーマ(B)にはその前提となる(A)、その後(C)がつながっています。

A → B → C
(応仁の乱)

「応仁の乱」についての説明がすらすらと出てくる人は問題ありませんが、「1467年」「足利義尚」「日野富子」「下克上」といった単語だけが浮かぶだけで、文章にならないという場合もあるでしょう。そんな場合は次のように考えていきましょう。

A → B → C
(背景・原因) (内容) (結果・意義・影響)
時 (年次・時代)
場 (地名・地域・場所)
人 (関係する人物)

歴史というのは過去のある時点、時期にある場所、地域で、人が何らかの行動を取ったわけですから、(内容)とはそのような時・場・人についての指摘が必要だということはわかるでしょう。そして、それにはなんらかの背景、原因があり、その後には何らかの重要な影響、結果がもたらされたからこそ注目されているわけです。

国公立 2次試験 直前対策

ところが、本格的な論述問題となると、**出るところは決まっている**。そのような基本的なテーマではかなりの高得点を確保しなければならないわけです。逆に言えば、長い字数を要求される本格的論述問題の難問は誰も高得点などとれません。安心して、**基本的なテーマ**に絞って対策を立ててください。

頻出する、そのような基本テーマの例をあげておきましょう。

〈論述問題の頻出テーマ〉

- ① 古 代⇒縄文時代の特徴・生活、中国王朝に対する朝貢、古墳文化の変質、律令制度（国司制度の変質など）、遣唐使、平安時代の文化、初期荘園・寄進地系荘園
- ② 中 世⇒鎌倉仏教、守護・守護大名・戦国大名、惣と土一揆、室町文化
- ③ 近 世⇒太閤検地、近世初期外交から鎖国体制へ、幕藩体制（参勤交代など）、三都、享保改革の諸政策、江戸時代の教育、開国と開国貿易
- ④ 近現代⇒大日本帝国憲法と内閣、地租改正、松方財政、条約改正、製糸業と紡績業、ワシントン体制、大正デモクラシー、金本位制の展開、日中戦争、近現代の教育、高度経済成長、戦後の国際関係

これらは出題されたときには**高得点が要求されるテーマ**の代表であり、予備校などの2次論述対策講座で採り上げられるテーマです。各テーマについて、その概略が説明できれば大丈夫ですが、苦手なテーマがあったら詳しく復習しておくこと。

Ⅲ. これだけはやっておこう

2次・私大だからといって、今から特殊な勉強を

する必要はありません。1日に一度は**年表**で頭を慣らして、古代から近現代までを同時に答えなければならない入試の実際に対応できる準備を怠らない。そして、単純な暗記を定期的に確認する。**史料**で不得意なものがあったらもう一度確認しておくこと。地道にこれらの作業を淡々とこなしていくこと。そして、具体的には次の点に留意してください。

(1) もう一度総復習

総復習の際、**自分の受験する大学の論述のタイプ**を念頭において復習すること。『New 石川日本史 B 講義の実況中継①～⑤』を読んで復習するにしても、単に知識を確認するのではなく、論述を意識して読むこと。東大などの過去問をやっておくと、その解答のポイントはほとんど本文で指摘されていることに気づくはずですよ。

(2) 正確な漢字で

実際の論述答案では誤字が目立ちます。それも、採点のポイントとなる語句（人名・地名・事件名・歴史的用語）で誤字を書くときつぱくの苦労は水の泡。論述に限らず、**誤字は絶対に避けたい**ところです。『誤字で泣かない日本史（日本史漢字練習帳）』（河合出版）を利用して、総まとめのためにも書いてみることを勧めます。

(3) 問題集の利用

仲間と論述用の問題集を出版しました（『考える日本史論述』）。丁寧な書き方の指導、代表的問題とその解説に添削問題もついています。代表的なテーマについては網羅してありますから、自分に必要なタイプの問題だけは一度書いてみることを勧めます。

では、健闘を祈ります。